住みよいまちの環境と風景

NPO 法人　市民まちづくり会議・むさしの

１．武蔵野市のまちと環境

武蔵野市は、市外の人々から「住みたいまち」としての高い評価を得ています。その理由として挙げられているものとしては、利便性の高い商業機能、音楽や演劇などまちの中から次々と発信される様々なサブカルチャーの魅力、高燥な台地の中に湧き出る潤い感あふれる井の頭池とそれを取り巻く緑豊かな井の頭公園、そして豊かな税収に裏付けられた行政サービスの高さなどがあります。

しかしながら、欧米の成熟した都市に見られるような、街並みの美しさや居心地の良いまち中の環境への評価は、残念ながらほとんど聞くことはありません。

私たちは、住宅都市武蔵野市がこれからもまちの魅力を発信し、住みよいまちとしての評価を高めていくためには、心地よいまち中の環境や美しい街並みを整えていくことが重要であり、その結果として、私たち武蔵野市民が誇りうる「美しく文化性の高い成熟したまち」が実現していくものと考えます。

２．武蔵野市のまちの問題

＜魅力ある誇りうるまちの実現＞

武蔵野市は、都市計画にもとづく幹線道路の整備や公園の整備、電車やバス、ムーバス等の交通機関の整備、さらにゴミ処理施設等の廃棄物処理や教育環境、文化環境等のまちの基盤的な条件については、部分的には課題を有してはいるものの、周辺の区市と比較しても遜色のない、むしろ誇り得る生活環境を有していると言えます。

また、戦後の住宅都市化の流れの中で、３世代、４世代と暮らし続ける市民も増加し、市民相互のコミュニティの成熟も徐々に進みつつあります。

＜武蔵野市のまちづくりの課題＞

その中で、取り残されているものが、まちの「基盤」ではなくまちの「成熟」に関わる“まちの風景”です。

毎年約１７００万人、国民の８人に１人が入れ替わり立ち替わり海外旅行に行く現代社会では、西欧の成熟した都市や農漁村を訪れ、住民や行政がルールに基づき自主規制をしながら美しい街をつくり、市民や外部から訪れた人々がそのまちの風景を眺めながら屋外のカフェでお茶や食事を楽しんでいる風景を見て、“武蔵野市もこんなまちにしたいな”と思われた市民は少なくないと思います。

そして、成田空港や羽田空港から自宅に戻る道すがら、“日本のまちは汚いな～どうしてこんなにごちゃごちゃして薄汚れているのだろうか”と現実の風景に意気消沈した経験をお持ちの方も少なくないと思います。

まちの風景を楽しみつつ、街が活気づくオープンカフェ。
街並みの保全が行われ、過剰な看板類も見当たらない

乱雑で不調和な、なんとも日本的な都市の景観

＜まちの風景づくりの現状＞

一方、まちの中の風景は、２０年３０年前に比べるとそれなりに美しくなっている場所も見られます。しかし、それは商店街の道路部分だけであったり、大きなビルやマンションの外回りの広場や緑地であったりと、公共用地や法規制にもとづく広場や緑地のみであり、市民が主体的に取りくんだ景観整備は極めて少ないのが現状です。

公共用地である道路については、電線を地下埋設し、美しい舗装を施したが、沿道の商業施設やその看板類については、景観的な配慮に欠ける、景観的には中途半端な商店街。

さらに風景は、視野に入る部分全てが美しくないとけっして良い風景にはならないため、道路部分だけの中途半端な景観整備だけでは、相当にお金をかけているにもかかわらず税金の無駄遣いになってしまっています。

このように、武蔵野市では行政が直接関与できる領域についてはそれなりに景観整備が進んでいますが、市民と行政が連携して取り組まなくてはならない景観整備はかなり遅れており、それを補完すべき景観条例も制定されていないのが実情です。

そのため、まちの顔ともいえる駅前の風景はなんとも悲惨な状態であり、建物の色や高さも不揃いであるだけでなく、さまざまな派手な看板類がそれを覆い、日本語を読めない欧米人からすれば、場末の歓楽街と勘違いされかねないけばけばしい混乱した風景が、武蔵野市を訪れる人たちの第一印象となってしまっています。

これが「住みたい街」を訪れた人たちにとっての第１印象。私たちは、このようなまちの顔である駅前の貧相な風景を、いったいいつまで容認し続けなくてはならないのだろうか。

一体、武蔵野市ではいつになったら魅力ある美しいまちが実現し、まちの成熟へと結びつくのでしょうか。

３．魅力ある成熟したまちの実現に向けて

幸いなことに、我が武蔵野市では、今年度から景観整備に本腰を入れ始めることになり、年初における邑上市長の施政方針においても、基本的方針の第１番目に「良好な景観形成を含めた質の高い環境の形成」が掲げら

れ、そのための施策として「景観ガイドラインの策定」を位置付けました。
　この景観ガイドラインには、公共用地や公共施設だけでなく、欧米のように個人の土地や建物、看板類に関する規制誘導も含まれてくると考えられますが、その実現のためには、景観に対する市民の関心や意識をより高めていくことが重要です。

　このような状況を踏まえ、私たちは武蔵野市の成熟したまちづくりの風景づくりに向けて、以下のような行政が実施すべき施策を提案します。
　この場合、大切なことは「風景づくりは百年の計である」と言う息の長い視点です。これから私たちの子子孫孫に魅力ある美しいまちの風景を残していくために、五十年、百年かけて地道に風景づくりを進めようという息の長い心構えが大切です。

＜風景づくりのための市民に向けた啓発・支援活動の展開＞
　以下の３つの段階の取り組みを、手を変え品を変えながらも、次々と育つ若い世代に向けて、１０年、２０年と取り組んでいくことが肝要と考えます。

⑴　動機づけ
より多くの市民の景観への関心を高め、生活環境の質の向上へとつなげてもらうために、さまざまな啓発事業を実施する
（魅力ある市内の風景のパンフレットの作成配布や市報への掲載、生け垣コンテストの実施、景観ウォッチングの実施、屋外広告物講習会の実施等々…）

⑵　適切な情報の提供
景観整備に関心を持った市民に対して、景観整備のためのさまざまな情報提供を実施する
（景観セミナーの実施、景観ガイドライン説明会の実施、まちの風景にも調和する住宅相談会の実施、魅力ある塀や生け垣づくりの説明会の実施等々…）

⑶　効果的な支援
景観整備に主体的に取り組む市民を評価し、支援するための体制整備を行う
（市民による公園や道路の花の修景のための花苗の提供、住宅や商業建築、商業看板、生け垣や玄関先の修景などを対象とした景観賞の制定、景観に配慮した増改築に対する補助金制度の制定等々…）

＜風景づくりのための市民と行政との連携体制づくり＞

⑴　花と緑のまちづくりの推進
・京都に代表されるように、成熟した魅力のあるまちには多くの人々が訪れ、都市観光によってまちがますます活性化されます。
・まちを彩る美しい花々や緑は、まちの魅力を高めるとともに、訪れる人々を温かく迎える要素として重要な役割を果たします。
・道路や公園、公共施設等の公共空間の緑化や花による修景を、行政と市民が協力して実施するとともに、個人の玄関先、塀の際、窓辺などに花づくりを市民が積極的に取り組むよう、

調和のとれた街並みの整備に加えて、美しい花々で演出された魅力あるまちは、訪れる人々の気持ちをより一層明るくする。

季節ごとの花づくりの手法を市民と行政が共有化していく必要があります。

⑵ 広告類が目立たない落ち着いた街の風景づくり

- 屋上広告看板や野立て広告看板など、ルールのない無秩序な広告看板類の放置は、まちの風景とまちの品格を著しく低下させます。
- 一方商店街でも、看板の色彩や位置大きさなどを自主規制した地区は、市民に愛される格調の高い商店街へと発展する可能性を有しています。
- 幸いなことに、武蔵野市には大きな広告看板を必要とするロードサイドショップはあまりありませんので、歩行者が認識し楽しむことができる、魅力ある看板設置への誘導が期待されます。

看板類が規制統一され、欧米の商店街と見間違うような、格調高い吉祥寺のダイヤ街商店街。武蔵野市に景観賞があれば、十分その対象となるであろう。

⑶ 心地よい住宅地の風景づくり

- 武蔵野市には、江戸時代からの門前町や宿場町などの歴史的な街並みはありませんが、大正時代や昭和初期頃の住宅建築が多数あり、これらの中には時代の評価に耐えてきた風格ある建物も見られます。
- また、数十年を経た住宅地には大きく枝葉を伸ばした古木も少なくなく、風格ある街並みの形成に重要な役割をはたしています。
- 住宅都市武蔵野市では、道路を挟んだ沿道の人たちが皆で話し合い、生け垣づくりや建物の色彩の統一等をすすめ、時代の評価に耐える魅力ある街並みづくりを進めることがこれからの重要な課題となります。

住宅地に必要な街並みは、日々の散歩コースにしたくなる心地良い街並み。